

## 平成 25 年度文学研究科共同研究経費申請書

下記の通り文学研究科共同研究経費を申請します。

<b>研究代表者 (申請者)氏名</b>	田中 均	<b>専門分野・ コース名</b>	美学	<b>職名</b>	准教授
<b>研究課題名</b>	芸術における「参加」の問題——美学理論と演劇研究からのアプローチ				
<b>研究目的</b>					
〔研究の目的、その意義と予想される成果、新規科研費獲得に向けた準備状況などを記入してください。昨年度科研を申請して不採択になった場合は、研究継続・再申請準備状況も記入してください。〕					
<b>研究の目的とその意義</b>					
<p>芸術における「参加」という主題は、美学・芸術学の領域において近年国際的に注目を集めている。しかしこの主題は多くの分野に関わるため、議論が錯綜しているのも事実である。それを踏まえて、本研究は、芸術における「参加」とは一体いかなる事態を指し、そこにいかなる意義と問題があるのかについて展望を得るための端緒として、美学と演劇学という異なる方法論を持つ隣接分野の協力関係を構築する。</p> <p>芸術における「参加」への関心が高まっている背景としては、1990 年代以降、欧米を中心に現代美術の批評と研究の文脈で、「参加型芸術」についての議論が展開されたことが挙げられる。しかし、「参加型芸術」の起源をたどれば、ロシア革命後の群衆劇や、1960 年代の南米の「被抑圧者の演劇」の実践が挙げられ、現代美術における「参加型芸術」に対応するものとして、演劇学では「応用演劇」(applied theatre) の概念が確立されている。このように、「参加」について実証的および理論的な知見を深めるためには、演劇学の知見と方法を踏まえることが欠かせない。また、「参加」について原理的な洞察を得るためには美学(史)を参照することも必要である。近現代の美学理論では、芸術作品の鑑賞者が想像や解釈などの仕方で能動的な役割を果たすことも「参加」と考えられており、これを踏まえればあらゆる芸術に関して「参加」を語ることが可能になる。</p> <p>以上に概観したように、芸術における「参加」について包括的かつ原理的な考察を行うためには、現代美術の批評と研究の領域で展開されている議論を踏まえるとともに、美学と演劇学のアプローチも総合することが必要である。本学文学研究科は、美学・文芸学、美術史学、演劇学の専門分野が隣接し、さらに研究科内外に芸術の実践と研究に携わる多様な教員を擁しており、上記の課題に取り組むに当たって現在考え得る最も好適な環境である。</p> <p>申請者は「参加」についての分野横断的な研究協力体制を構築するための第一歩として、今年度は美学と演劇学の共同研究を組織し、互いの知見を共有し、互いの方法を補い合う可能性を探る。</p>					
<b>予想される結果</b>					
<p>今年度の共同研究では、以下の 2 点について大まかな見取り図を描くことが見込まれる。①まず美学史において、「参加」およびそれに関わる諸概念(「公衆／観客」、「想像／想像力」など)がいかに規定されてきたか。②つぎに演劇史において、「参加」にいかなる意義が与えられ、いかに実践されたか、またそれをいかに評価すべきか。今年度の成果を踏まえて、来年度以降は、議論を精緻化するとともに、協力体制を拡張していくことが目指される。</p>					
<b>科研費獲得に向けた準備状況</b>					
<p>申請者は昨年度、研究計画の中に、分野横断的研究および芸術実践と研究との交流を盛り込んで若手研究(A)に応募したが、不採択であった。その反省を踏まえて、今年度の科研費申請では研究課題を絞り込み、美学のなかでも特に近代ドイツ語圏の美学史における観客論を主題として若手研究(B)に応募する予定だが、それと平行して、中期的な視野をもって着実に研究協力体制の構築を進めることによって、近い将来より規模の大きな科研費を申請するための準備とする。</p>					

## 研究計画・方法

[研究計画・方法を具体的かつ詳細に記述してください。また、研究経費（次ページの支出計画欄に記載）の必要性・妥当性を明確にしてください。]

### 研究計画・方法

#### ① 研究会

今年度は2回の公開研究会を行う予定である（いずれも場所は大阪大学とする）。

第1回研究会は、12月下旬（23日（月））に1日で開催することを予定している。そこでは、美学と演劇学の両分野における「参加」をめぐる基本的な問題系を確認し、今後の具体的な研究課題を設定する。予定される発表者と論題は以下のとおりである。

須川渡 「日本のコミュニティ・シアターにおける「観客参加」

田中均 「近代美学の基礎概念としての「参加」

渡辺浩司 「古代ギリシャ悲劇と「参加」

第2回研究会は、2月（22日（土）・23日（日））に、2日間連続で行うことを予定している。ここでは、第1回研究会で設定された課題を踏まえて、共同研究分担者が、これまでの研究の蓄積に基づいていかなるアプローチをなしうるか報告する。現時点で予定される発表者と論題は以下のとおりである。

古後奈緒子 「バレエ台本に描かれた観客」

（あるいは「ホフマンスタールの舞台芸術構想における公衆／観客像の変化」、「ルドルフ・フォン・ラバンのコーラス舞踊の構想」）

馬場朗 「18世紀フランスにおける芸術参加に関する美学史的一試論：ルソーを中心として」

正木喜勝 「近代日本演劇史における「参加」

森功次 「参加型芸術作品の存在論的地位と、そこにおける想像力の役割」

#### ② 研究打ち合わせ

2回の研究会それぞれに先だって、文学研究科に所属する共同研究分担者を中心として研究打ち合わせを行う。研究会の運営の準備のためだけではなく、文献・資料についての情報を交換、研究方法について相互に助言し、さらに今後の研究協力体制の構築について協議する。

### 研究経費の必要性

- ① 設備備品費：共同研究分担者が、それぞれの研究主題に関連する文献を購入するための費用として、1人あたり30千円を目安に予算を計上している。
- ② 国内旅費：国内旅費は、馬場朗氏と森功次氏（ともに出発地は東京）がそれぞれ2回研究会に参加し、その前後に打ち合わせを行うための旅費（各回1泊2日）を合計したものである。
- ③ 人件費：2回の研究会（合計3日間）は公開で行うため、会場の準備、片付けのために3人のアルバイトを雇用する（各日6時間の予定）。

## 研究組織

氏名	年齢	所属機関・部局・職名	専門分野
田中 均	*	文学研究科・准教授	美学
古後 奈緒子	*	龍谷大学他・非常勤講師	舞踊学・美学
須川 渡	*	文学研究科・助教	演劇学
馬場 朗	*	群馬県立女子大学・文学部・教授	美学
正木 喜勝	*	文学研究科・招聘研究員	演劇学
森 功次	*	山形大学・日本学術振興会特別研究員	美学
渡辺 浩司	*	文学研究科・助教	文芸学

※1行目に研究代表者（申請者）を記入してください。記入欄が足りない場合は追加してください。

※本学関係者については所属機関（「大阪大学」）は省略してください。

## 研究スケジュール

時期	内容
10月	第1回研究打ち合わせ
12月	第1回研究会
1月	第2回研究打ち合わせ
2月	第2回研究会（2日間）

※記入欄の数・幅が足りない場合は適宜追加・拡大してください。

研究経費の支出計画 (単位：千円)

設備備品費		研究課題に関わる図書購入費 (30千円×7人)	210千円
旅費	国内出張	東京－大阪 (2回×2人)	180千円
	海外出張		千円
	外国招聘		千円
人件費	人件費	研究会準備・片付 (950円×6時間×3日×3人)	51千円
	謝金		千円
事業推進費	消耗品		千円
	印刷製本		千円
	通信		千円
	会議		千円
	招聘外国人滞在費		千円
その他			千円
合 計			441千円

外部資金獲得・応募状況 (最近5年間のものまたは応募予定のもの)

外部資金の名称と研究期間	研究課題名・研究代表者氏名	全研究期間の総研究費 (単位：千円)	採否	本申請との関連性
科学研究費補助金・若手 (B) 2010-12年度	「ツアー・パフォーマンス」の独自性と意義——調査と分析による解明 (田中 均)	2,860	採用	現代日本のパフォーマンスにおける観客参加の事例に注目した研究であり、本申請の背景をなす。
科学研究費補助金・若手 (A) 2013-15年度	「参加」と「脱-参加」の間の美的経験：芸術受容経験の両極性の研究 (田中 均)	5,690	不採用	不採用の研究計画のうち、分野横断的研究の部分に、本申請によって着手する。
科学研究費補助金・若手 (B) 2014-16年度	近代美学における「テアトロクラシー」 (田中 均)	3,000	応募予定	ドイツ語圏の近代美学史に関わる部分に特化した研究であり、本申請において代表者が担当する分担課題を発展させるものである。

